

## 多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 6 0】  
添付ファイル: 「魔法のような薬」デパスの減薬に立ち塞がる壁 \_ 「合法薬物依存」の深い闇 \_ 東洋経済オンライン \_ 経済ニュースの新基準.pdf; 松本俊彦意見書の要旨.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。  
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」** をご紹介ください。  
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS 拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

### 【目次】

1. 「魔法のような薬」デパスの減薬に立ち塞がる壁 (添付)
2. 覚せい剤で逮捕された、高知東生の今「妻を泣かせたあの日から…」
3. カルロス・ゴーン氏の国外逃亡

### 【記事】

1. 「魔法のような薬」デパスの減薬に立ち塞がる壁 (添付)  
<https://toyokeizai.net/articles/-/324565>

東洋経済社さまが、デパス (エチゾラム)

の危険性を警鐘する記事の特集として報道され、その第 7 回の記事が掲載されました。  
その中の 3 ~ 4 頁目では「**松本俊彦医師との一問一答**」として記事が掲載されました。

ご存じのとおり、NCNP の薬物依存研究部長の松本俊彦医師は、名古屋地裁において  
被告 (国立循環器病センター) の協力医として、以下 (添付) の要旨の意見書を提出しており、

『**②** ベンゾジアゼピンは薬物依存を生じず、医師の処方に従えば、ベンゾジアゼピンは薬物依存となる可能性は低い』

『**③** ベンゾジアゼピン「常用量依存」の患者を 1 人も診断した経験がなく、「ベンゾジアゼピン常用量依存」という診断は「理念的診断」である。』

『**④** ベンゾジアゼピンの離脱症状は、ベンゾジアゼピンの服用を中止すれば 2 ~ 3 週間で自然軽快するので、医学的治療の対象とはならない。』

『**⑤** ベンゾジアゼピン薬物依存の発症の原因は、ベンゾジアゼピンを服用する患者の性格傾向に発症の原因がある。』

などと、ベンゾジアゼピンの副作用を否定する論陣を張ってきました。

一方、上記の東洋経済社の記事では、**松本俊彦医師は、デパスの常用量依存を認めた上で、**

『ある意味で医療機関として安定した顧客を得ることができるというところもあったと思います。』

『常用量依存の可能性のある人についてはどう考えるべきなのでしょう？ 今後は新規に出さないけれども、今飲んでトラブルが出てない人に関しては、もうとやかく言うのはやめようと、私自身は思い始めています。何か問題が生じたときにしっかり関わろうと思っています。実際、この薬は本当に止めづらいのです。』

『しかし、デパス (エチゾラム) のような ベンゾジアゼピン受容体作動薬依存の人は 1 ~ 2 カ月間の入院

が必要になります。根気よく薬の量を少

しずつ減らし、退院後も外来での治療を継続していきます。』

『だから魔法のような薬で夢を見させてしまって、患者さんが薬に幻想を持つようにならないほうが、「しょせん薬はこんなもんですよ」という諦めを持ってもらったほうがいい気がします。同時に私たちは治療を短期的な成果だけで考えてはいけないのだろうと思います。』  
としています。

すなわち、裁判所へ提出した松本意見書とは変節しています。

したがって、これ以上、ベンゾジアゼピンの危険性や副作用を隠すことはできなくなったということです。

なお、当会（BYA）は東洋経済社さまへ「松本意見書」等の資料を送付し、今回のインタビュー記事が実現したものです。

## 2. 覚せい剤で逮捕された、高知東生の今「妻を泣かせたあの日から…」

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200116-00001486-fujinjp-ent>

以下引用

『そして「依存症は脳に依存物質や依存行為の回路ができてしまう病気なので、意志の力ではどうにもならない」「なぜ依存せずにはいられないのか、原因になっている心の傷を突き止めることが先決です」と話は続き、自助グループに参加するよう勧めてくれました。「自分を苦しめる思いを分かち合い、プログラムで生き方を変えた人を私は数多く見てきました」と。』

違法薬物が如何に更生が困難で、大きな弊害を含んでいるかが分かる。違法薬物を非刑罰化・自由化（松本俊彦の主張）をすれば、どれほど多くの国民が苦しむことになるか、火を見るより明らかである。そして、医療者が処方する処方薬物も、ベンゾジアゼピンの高い依存性が多くの災禍を生じている。

## 3. カルロス・ゴーン氏の国外逃亡

ゴーン氏が「横領」を働いたのは間違いなさそうだが、他方で、日本の刑事司法に問題があるのは事実であろう。そして、さらに問題が大きいのは「**民事司法の杜撰さ**」である。その原因は裁判所の組織が硬直化しており、**憲法 80 条の「裁判官の任期は 10 年」**が守られておらず、裁判官が交替しないためである。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史